

日本メンテナンス工業会

Japan Association of Maintenance and Service Contractors

会報

通巻

第100号

Vol. 28, No. 2

2018.1

Maintenances
for the Future

世界をメンテナンスが
支えています

日本メンテナンス工業会は、
メンテナンス・サービス企業の同業者団体として
1990年に設立され、総合、機械、電気、計装など
各分野の信頼できる企業が会員です。

特別企画

JAMSEC会報 “創刊100号に寄せて”

JAMSEC News

日本メンテナンス工業会 平成30年新年賀詞交歓会開催される

特別記事

「メンテナンス・レジリエンスTOKYO 2017」結果報告

掲載企業

山九株式会社／旭化成エンジニアリング株式会社／
株式会社神鋼エンジニアリング&メンテナンス／新興プランテック株式会社／
株式会社高田工業所／株式会社中部プラントサービス／日鉄住金テックスエンジニアリング株式会社／
富士電機株式会社／株式会社明電エンジニアリング／
横河ソリューションサービス株式会社／非破壊検査株式会社

特集・人材育成

西日本工業大学の取り組みについて

法令・規格委員会

発行：日本メンテナンス工業会

目 次

[巻頭言]		
生涯学習	高田 寿一郎	1
[特別企画]		
JAMSEC 会報“創刊100号に寄せて”	吉川 善治	2
[JAMSEC News]		
日本メンテナンス工業会 平成30年度賀詞交歓会開催される		3
会員各社の動静		
[特別記事]		
「メンテナンス・レジリエンスTOKYO2017」結果報告		8
山九グループで一貫して行うプラントメンテナンス	山九株式会社	9
IoTで拡がる新たなメンテナンスの世界	旭化成エンジニアリング株式会社	14
「汎用システムでリニューアル」、「簡単！便利！製造現場の仕事を楽に！」	株式会社神鋼エンジニアリング&メンテナンス	20
「総合プラントメンテナンス企業」としてプラントの安定稼働に貢献します	新興プランテック株式会社	24
電流情報量診断システムT-MCMA	株式会社高田工業所	29
防食資材（マグネラップ）、IT資料（多言語版）、設備診断技術について	株式会社中部プラントサービス	34
造る前から始まる設備のメンテナンス 総合サービス力でお客様設備の安全・安心を支えます。	日鉄住金テックスエンジニアリング株式会社	42
～熱い情熱をもつカスタマーエンジニアが、高いメンテナンス技術力で お客様設備に優しいソリューションを提供します～	富士電機株式会社	48
—明電グループのワンストップサービス—	株式会社明電エンジニアリング	52
Industrial IoTが実現する Maintenance of the Future ～「スマートメンテナンスの実現」と「ワーキングスタイル変革」～	横河電機株式会社／横河ソリューションサービス株式会社	56
	横河メータ&インスツルメンツ株式会社（横河計測株式会社）	
壁面走行ロボット「NDIC CLIMBER」による遠隔検査技術および埋設部等の腐食検査技術	非破壊検査株式会社	62
[Coffee Break]		
長生きのこつは？	富士電機株式会社	喜田 功 68
[調査統計]		
会員企業概要（1年調査：2016年度データ）		70
長時間労働アンケート結果	調査統計委員会	72
[随筆]		
我が人生	株式会社西島製作所	前田 賢二 80
[特集・人材育成]		
西日本工業大学の取り組みについて	法令・規格委員会	82
[見学会報告]		
大阪有機化学工業株式会社金沢工場 見学・研修会	株式会社中部プラントサービス	吉岡 成 87
[事務局より]		
会員各社の動静 ほか		88
日本メンテナンス工業会 頒布資料申込書		90
日本メンテナンス工業会 会員名簿		91

■ 巻 頭 言 ■



副会長 高田 寿一郎
株式会社高田工業所
代表取締役社長

生涯学習

日本メンテナンス工業会会報 通巻100号を迎え、誠におめでとうございます。

現在、大学生の長男が小学生の頃、家内に「お父さんは学校に行かなくてもいいし、宿題もなくていいね。」というようなことを言ったそうである。そう言えば、私も子供の頃、父のことをとても羨ましく眺めていたように記憶している。当時の私が見ていた父は、学校に行く必要もなく、当然宿題もなく、家庭ではテレビのチャンネル権を握り、見たい番組を見る。休日はゴルフやボーリングに精を出す。自分も早く大人になりたいと思っていたことを思い出した。

時は流れ、私も学校を卒業し、どうにか幼い頃に憧れていた大人に、社会人になった。当然であるが、今度は学校に通っている世代が羨ましく見えてきた。社会に出れば、まず企業の一員として覚える事、学ぶ事が山ほどあり、その範囲には制限も終わりもない。損した得したで一喜一憂、右往左往する。それに対して学生の彼らには、長期の休みがあり、宿題はあるが範囲が決まっている。大抵の場合、勉強する範囲は教師が決める。できることなら、学校に通っていたあの頃に戻りたいとたまに思う。

二十年程前から、父をはじめとした数人が発起人となり、地元の志ある人たちを集めて月に一度、ある勉強会を開催している。現在は、先年他界した父の後を引き継いで、私が会長を務めている。勉強会の内容は、陽明学の大家であり、歴代総理の影の指南役と言われた、安岡正篤先生の著作を輪読すると

いったものである。著作のほとんどは、主に中国の古典について解説をされたり、それらを戦前、戦中、戦後、それぞれの時代背景に当てはめて意見を述べられたりしている。ご存知のとおり、中国の古典には現代にも通じる故事も多く、経営者として、人として生きていくうえで、大変勉強になる。

また、日本人の中にも優れた思想家は存在する。江戸時代の儒学者で佐藤一斎という人がおり、その方の著作「言志四録」の中に、「^{せう}少くして学べば、則ち壮にして為すこと有り。壮にして学べば、則ち老いて衰えず。老いて学べば、則ち死して朽ちず」という言葉がある。

人は学ぶ気さえあれば、どんなことでもどこまでも学ぶことができる。反対に「これで充分」と思っただけで、当然であるがそれ以上伸びることはない。大人になったことをプラスに考えれば、何を学ぶかは自分で決めることができ、より深く追求することもできる。どこまでいっても終わりはないが、これからもできるだけ書物を読み、人の話を聞き、少なくとも年相応の常識と知識を持った大人になりたいと願うばかりである。

家庭での私を見て「早く大人になりたい」と言っていた長男も、あと数年で親元を離れ自分で稼ぐようになるであろう。社会の荒波にもまれながら、社会人とは、大人とは、あるいは人の親とは、といったことを学ぶであろう。その時に、何を思い、どのような考えを持つだろうか。酒でも酌み交わしながら、念願の大人になった感想などを聞いてみたいものである。